

第2回横浜市社会教育コーナー指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	令和8年8月24日（月）13時30分～15時30分
開催場所	横浜市役所18階共用会議室みなと5
出席者	有元委員、川野委員、竹迫委員、中村委員
欠席者	伊藤委員
開催形態	公開（議題1・3）・一部非公開（傍聴者0名）
議 題	1 事務局からの報告事項 2 第一次審査（書類審査） 3 第二次審査（面接審査） 4 最終審査 5 指定候補者の選定
決定事項	指定候補者を以下のとおり選定し、教育長に報告することとした。 なお、応募団体が1団体だったため、次点候補者はなし。 指定候補者：特定非営利活動法人 夢・コミュニティ・ネットワーク
審議内容	1 事務局からの報告事項 ・現地見学会・応募説明会を6月4日に開催し、合計1団体の参加があった。 ・特定非営利活動法人夢・コミュニティ・ネットワークの1団体から応募があり、応募団体は、欠格事項に該当していないことを確認した。 ・応募団体が1団体のみであったため、審査におけるブラインド化の対象外となる。 2 第一次審査（書類審査） （非公開） 3 第二次審査（面接審査） 応募団体によるプレゼンテーションが行われ、その後、質疑応答があった。 ＜主な質疑応答＞ （委員） 社会教育コーナーの利用者層をさらに広げるため、どのような取組を考えているか。特に新たな利用者層へのアプローチについて伺いたい。 （団体） 若者や企業人材を重点的な対象として位置付けている。いままで地域活動や社会教育活動へ参加ができなかった方のきっかけづくりを行い、将来的な担い手育成につなげていきたい。また、SNS等も活用しながら、これまで施設利用が少なかった層への周知を進めていく。 （委員） 法人では子育て支援、多文化共生等さまざまな事業を実施しているが、社会教育コーナー運営との関係をどのように整理しているのか。 （団体） 地域課題は個別分野ごとに分離して存在するものではなく、相互に関連している。法人が有するネットワークや事業経験を生かしながら、多様な主体を結びつける社会教育事業を展開していきたい。 （委員） 職員の退職や長期休職が生じた場合の対応体制について伺いたい。 （団体） 法人全体で人材を確保しながら対応する体制を整えている。また、日頃から職員育成や情報共有を行い、特定の職員に業務が集中しないよう取り組んでい

る。

(委員)

コミュニティコーディネーター育成事業をどのように展開する考えか。

(団体)

地域課題の解決に向けて多様な主体をつなぐ人材が重要であると考えている。講座や実践機会を通じて、地域活動の担い手となる人材育成を進めていきたい。

(委員)

子どもを対象とした事業を実施する場合、利用者や職員による不適切行為等を防止するため、どのような対策を講じるのか。

(団体)

館内巡回や複数職員による確認などを行い、安全確保に努める。また、事業実施に当たっては信頼できる講師や関係者との連携を図りながら、事故やトラブルの未然防止に取り組む。

4 最終審査

(非公開)

5 指定候補者の選定

区分	団体名	得点※/満点
指定候補者	特定非営利活動法人 夢・コミュニティ・ネットワーク	354 点/500 点

※最低基準（加減点項目を除く満点の 60%）：240 点

< 委員からの講評 >

- ・社会教育施設としての役割や目的を十分に理解していることが確認でき、地域活動、子育て支援、多文化共生等の取組を通じて培った人的ネットワーク等を活用し、多様な主体をつなぐ事業展開が期待できる提案があった点が高く評価できた。
- ・学びを通じた人づくり、つながりづくり及び地域づくりを重視し、市民の主体的な活動を支援する社会教育施設としての運営方針が示されていた。
- ・財務状況も概ね健全であり、管理運営体制についても継続的な施設運営が可能であると評価できる。
- ・横浜市全体の社会教育施設であることを踏まえ、市内の市民活動・生涯学習支援センターやそれに準じる公的機関、地域施設との広域的な連携にも意識を向け、地域単位に留まらない広域的な視点から運営を意識していただきたい。
- ・次代の担い手育成に向け、若者及び企業人材の社会参加につながる取組や社会教育に関する専門人材の育成及び活用について、具体的かつ積極的な取組が求められるため、夜間利用や新規利用者の獲得に向け、SNS 等を活用した情報発信や新たな事業展開について継続的に検討を進めてほしい。
- ・子どもが参加する事業については、利用者との関係性に依存することなく、安全確保のための仕組みを確立した運用体制となるよう、特に留意しながら運営実施することを期待する。

特記事項

なし